



はこべら

学校教育目標：豊かな心を持ち、心身ともにたくましく、自ら学ぶ子供の育成

響かせよう 響き合おう ~今に響け 未来に響け~

時津町立時津東小学校 学校だより 第 12 号

令和 6 年 3 月 22 日 文責：校長 村井 宏之

卒業おめでとう



三月十八日(月)、澄み切った空気の中、第四十八回卒業式が挙行されました。多くの方々から温かい祝福を受け、九十三名の卒業生は、今は小さくなったランドセルを背負い、心のふるさと時津東小学校を巣立っていきましました。その姿がとも微笑ましく、見ていると心が熱くなりました。

式中は多くの卒業生が涙を流していましたが、最後まで凛としたすばらしい態度でした。参列いただいた来賓の皆様から、「いい卒業式でしたね。」と、たくさんのお褒めのお言葉をいただきました。また、五年生もこれに心えるように、すばらしい態度で式に臨んでくれました。五年生も、この卒業式を経て一回り成長したように感じます。

校長式辞では、この一年間、学校のリーダーとして学校を支えてくれた六年生の頑張りを称えようと共に、卒業生へ二つの願いを伝えました。一つは、未来を生きていくためには「響かせ、響き合う」力が必要であり、身に付けていってほしいこと。そして二つ目は、漫画ドラえもんの中にあつた言葉を通して、「これからつまずくこともある。つまずいても立ち直る強さ

をもってほしい。」ということを伝えました。子供たちが、自らの手で未来を切り拓き、夢を叶えてくれることを、そして、九十三名の一人一人の未来に幸あらんことを祈念します。

頑張ったね！東っ子



本日二十一日(金)、本年度の修了式を迎えました。一年間、みんな本当によく頑張りました。東っ子、みんなに花丸です。

今年度は五月に新型コロナウイルス感染症が五類となり、数年ぶりに学校の日常が戻ってきました。「運動会」や「はこべら祭り」などの学校行事も制限なく実施することができ、その度に子供たちは成長していったように感じます。高学年の明るく、前向きな姿勢が全校に広がり、東小はさらにすてきな学校になりました。

毎日、いっしょに、発表、あいさつ、友達と、責任感、工夫、興味、優しく、続けました、向上心、積極的、教え合い、意欲、粘り強く、堂々と、自分で、最後まで、継続、明るく、一生懸命

これらの言葉は、子供たちの通知表の所見にあつた言葉です。どれも子供たち

の頑張りを表しています。一人一人の歩みの幅は違うかもしれませんが、この一年で間違いなく全員が成長しました。しっかりと自分の成長を振り返ることが、次の成長につながります。ぜひ、ご家庭においても、お子様の成長や頑張りをたくさん褒めてあげてください。そして、新学年への希望をご家族で語り合ってください。

離任式

このたびの人事異動で左記のとおり、本校職員も退職・異動することになりました。時津東小学校の子供たちのために、誠心誠意尽くしてくれた職員ばかりです。別れはつらく、寂しいですが、異動する職員の新しい学校でのますますの活躍を祈ります。

【異動及び退職する職員】

田崎 尚美	教諭	退職
諸石 弘宣	教頭	時津町立時津小学校
福田 和子	教諭	時津町立鳴鼓小学校
鳥山 伸子	教諭	時津町立時津北小学校
川本 睦	教諭	時津町立時津小学校
内田 佑紀	教諭	時津町立鳴鼓小学校
永田 隼人	教諭	時津町立時津小学校
谷脇 真理	講師	時津町立時津小学校
前野 栄子	講師	退職
山本 起由	講師	退職
キルトン エナ	ALT	時津中・時津小
坂井 和子	用務員	退職



非認知能力とは

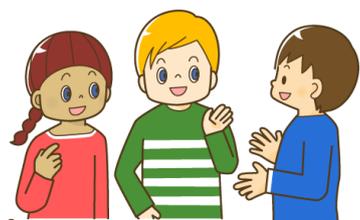
先日、ある研修会の長崎大学教育学部脇信明先生による講義の中で、非認知能力について話がありました。子どもに関わる大人が、知っておいた方が良くと思った内容があったので今回紹介します。

まず、『知識や技能の高さが、豊かな人生につながるとは限らない。「学力の高さ＝社会で生きる能力の高さ」ではない。』とありました。どういったことかという、人が仕事を続ける上では、認知能力（IQ、学力、知的能力などの数値に表しやすいもの）を支える



- ①価値観が違う人でも拒まない親和性と理解力
- ②他者への尊敬と価値を認める信念と我慢強さ
- ③集団との関係性を築くコミュニケーション力

が必要だとありました。①が足りないと、新しい人や環境に馴染めないなどが考えられます。②が足りないと、人と考えが違う時や自分の考えが認められない時、あきらめて投げやりになってしまうことが考えられます。③については、会社や地域のコミュニティとの不協が考えられるので、確かにそうだなと思いました。またこれらは大人の私たちでも足りなかったと反省する場面があるのではないのでしょうか。（私はあります…）



ではこれらの力はどのように育てていけばよいのでしょうか。それはご褒美や罰のような「外発的動機付け」ではなく、自分の内面的な楽しみや意義による「内発的動機付け」が必要だとのことです。また「内発的動機付け」を維持するための3つの鍵として、「有能感」「自律性」「関係性」が挙げられました。「有能感」とは、ほんの少し上の課題で、努力すればできそうだと感じること、「自律性」とは、自分が選んで自分の意志でやっていると感じること、「関係性」とは、家族、クラスなどの一員であると感じられることだそうです。さらに「有能感」を育むためには“結果”だけでなく“過程”にも声かけ賞賛を、「自律性」を育むために「できたね。」だけでなく「書いていてどうだった？」「どうしてできたのかな？」などの声掛けが、「関係性」を育むために頼れる頼られる関係を築く、必要なことや思ったことがきちんと言える関係であることが必要だとありました。

すべてを同時に意識することは大変そうですが、がんばっている途中にも声かけをしていく、できるだけ選択肢を与えて選ばせる（あくまでもやるべきことの範囲内で）、手伝いなどの後は「よくやったね。」よりは「ありがとう助かったよ。」の声掛けぐらいからならできるのではないのでしょうか。そしてできるだけ顔を合わせての会話をしていきたいところです。

みんなが幸せな社会の一員をめざしていかなければと考えます。